

対 談

Top Interview

火 談

「さあ、踏み出そう。」

心を決めて、一步を踏み出す。

歩み続ける先に、明日がみえてくる。

過去、現在、未来を結んで翔くヒントを
スペシャル対談でお届けします。

「踏み出すためには
改革を起こし、
挑戦し続けること」



Koichi Fukuda

福田 浩一

【プロフィール】

株式会社 山口フィナンシャルグループ代表取締役社長／株式会社 山口銀行 取締役頭取。グループネットワークを生かした付加価値の提供、地域活性化に邁進。

趣味はゴルフ。

社会の変化を待つのではなく、一人ひとりが変わるべき時代です。山口らしさをどう生かすか、地域をどう活性化するか。ふるさとへの愛があるからこそ、みんなでもっと一步「踏み出さなければ」と思っています。昔、まだATMのなかつた時代に「やまぎんの○○さん」と気軽にお声掛け、ご相談いただいた絆や温かさを今に生かし、地元で活躍される素晴らしい企業や人々を、グループ全体で応援するべく本音でお話します。

「踏み出すためには 素直な心で

自他をみつめること

何百年も前につくられた作品に向き合うとき、当時の人々の想いや伝統に今を生きる自分が触れあうとき、感動と探究心を抑えることができません。子どものようにやわらかな心で森羅万象の成り立ちを問う心、それを探求する精神が、次々と新たな扉を開いてくれた気がします。自然豊かで、研究機関なども充実しているふるさと、山口の恵みに応えるためにも、「踏み出す」というテーマをあらためて考えてみたいと思います。

「踏み出すためには その先の笑顔を 常に心に想うこと」

情報を届けることで、カメラの向こうの方に喜んでいただけることがすべての原動力です。山口つて素敵だな、面白いなと思っていただけるように、仕事とプライベートの区別なく、アンテナを広げて出会いや感動を求める毎日です。今回は、ふるさと・山口県をこよなく愛され、経済と文化、それぞれの世界で第一線を走り続けていらっしゃるお二人にお話を伺います。皆様の心に、メッセージをお伝えできたら嬉しく思います。

Ryoji Baba 馬場 良治さん

【プロフィール】
国宝・重要文化財保存修復／日本画家。歴史遺産の色彩や壁画の調査・復元の第一人者。平等院鳳凰堂や三十三間堂（京都）、住吉神社本殿（下関）などを手掛ける。平成26年7月、国が認定する「選定保存技術保持者」に山口県で初めて内定。趣味は料理。

馬場良治先生の
「選定保存技術保持者
(建造物彩色)」ご内定を
心よりお祝い申しあげます。

「選定保存技術」とは、文化財保存のために欠くことのできない伝統的技術または技能で保存の措置を講ずる必要のあるものを言い、その保持者として、文部科学大臣の認定を受けられる見通しとなったものです。
(平成26年7月18日現在)

Nana Onoguchi

小野口 奈々さん (聞き手)

【プロフィール】
KRY山口放送アナウンサー。
『熱血テレビ』(月曜日～木曜日：
夕方4時53分～5時53分／金曜
日：夕方4時45分～5時53分)他
に出演中。趣味はフラダンス。



勇気と力とは。 今時代に、 踏み出す



進取と継承。

機会を逃さず、

力を尽くす日々を。

輩方が築かれた土壌の上に、機会や後押しをいただいて、日々前進しています。

小野口 創作や修復活動に取り組

山口ファイナンシャルグループ（以下、YMF G）は、地域を超えた経営統合や証券会社の設立など、常に新しいことに取り組まれています。

福田 中心にある山口銀行は、昔から進取の精神という企業DNAがあります。現状維持は衰退のはじまりと考え、地方銀行として初めて海外の拠点を持つなど、挑戦の歴史があるのです。先

修復では、二百年前の出土品の分析などから、牛ではなく魚入りの膠※を使うことで、「絵具のはく落を止められる」という発見ができました。これは、長年胸に温めてきた挑戦に、時空を超えたつながりで光が

馬場 私も、全くゼロから生み出された感覚はありません。ものに触れて感動し、感性と一致したときに創作が生まれます。また、文化財の

当たったものです。日頃から、頭で考えたり、熟成しているものが、機会を得てぽつと出てきます。

※膠(にかわ)：動物の骨や皮から作られる接着剤。

親を想い、

先人を想い、

感謝の心で取り組む。

小野口 そもそも、先生が文化財の修復の世界へ踏み出されたきっかけは何ですか？

馬場 大学院にいたときに、師匠である平山郁夫先生に「悪いようにはしないから、私についてしばらく辛抱しないか」といわれまして（笑）。正直、苦手な分野だったのですが、見込んでいただいたのですが、見込んでもいたいたいなら応えたいと思いました。先生は「頑張っていれば、そのうち何かをつかむ」というお考えでしたね。実際、進めるうちにだんだん見えてきた気がします。

福田 平山先生は高校の先輩ですが、お人柄も愉快で、大変魅力的な方だったそうですね。

馬場 そうですね。ご両親のことも非常に大切にされていました。先生が亡くなられる数年前に、ご両親のお墓へ般若心経を奉納されたのですが、ご高齢ながら、一生懸命に書いていらっしゃいました。私たちもそういう想いを持っておかなければと思いません。余談ですが、私がふるさとの宇部に戻ったのも、40代の初めに体調を崩した

対談 「さあ、踏み出そう。」

Top Interview

ときに、先生から「親孝行しない」と助言をいただいたからなのです。

小野口 そうだったんですね。

福田 踏み出す、というのは先達からいただいた遺産なり、しっかりした土台がなければ挑戦ができないわけで。それに対する感謝を、常に持つておくことは非常に大切でしょうね。

地域を超えて、
未来のために
やれることはなにか。

小野口 それでは、お二人が今後新しく「踏み出そう」とされることは何ですか？

福田 新たなマーケットへの挑戦です。現在、YMF Gは全国へ進出する多くの地元企業とお取引をさせていただいていますが、個人のお客様でも、就職や結婚で山口と縁のある方は大勢いらっしゃいます。人とふるさとつなぐ役割も担い、新たな商品やサービスを提供することで、地域を超えて広域に活性化に貢献したいものです。

小野口 お客様を応援する銀行の姿勢が強化されますね。私も、いつも山口をPRしたい、応援し

たいと考えているので、とても共感します。馬場先生は、いかがですか？



大人こそ、
今ここにある

自分を見つめて前へ。

小野口 刺激をいただく貴重なお話、ありがとうございました。それは最後に、これから「踏み出そう」とされる方々へ、メッセージをお願いします。

馬場 「感動を新たに」。現代は、あまりにメディアが氾濫しそぎて、素直な心や感動から逃げがちです。しかし、そういう自分も意識して客観的にみつめることで、進むべき方向性がみえてくると思います。また、必ずしも外に目を向けずとも、すぐ近く一家庭や友人、地域の中にいる幸せやヒントに気付くことも、あるのではないかでしょうか。

福田 私は「即今」ですね。すなわち今、つまり未来の予測や計画も必要ですが、「今」を真摯に生きることが大切です。また、挑戦は若い人だけではなく、私たちの世代にこそ必要だと感じます。勇気を持って踏み出せばいろいろな抵抗もあるでしょうが、足をひっぱる人ばかりではなく、周囲は意外と優しいものです。

馬場 純粹に、墨独特の表現に惹かれたのです。白は墨で汚れます無を表現するのです。平安時代の絵でも、正面からみると墨で塗つた黒色の部分が使い分けられ、文創の源になっています。

小野口 その表現を追求するエネルギーは、どこからくるのですか？

馬場 純粹に、墨独特の表現に惹かれたのです。白は墨で汚れますが、表現によつては綺麗でしょう。なぜ、と疑問を追求する心が、創作の源になつています。